

大原風力発電所^(仮)
スポンサー募集のご案内

CONTENTS

背 景	1
クリーンエネルギーの現状	2
グリーン電力証書システム	3
日本自然エネルギー株式会社の活動	
① 参加を決定している企業	4
② 風力発電所事例	5
大原風力発電所(仮)	6
株式会社HATSUDENの活動	
① 着眼点とアプローチ	7
② 大原風力発電所(仮)の取り決め	8
大原風力発電所(仮)・二次利用事例	9
大原風力発電所(仮)・付加価値	10
代理店2社(日本自然エネルギー株式会社と 株式会社HATSUDEN)の比較	11

環境マネジメントシステム
ISO14000シリーズの
国際規格化(1996年9月)

2001年2月末現在5,580件が認証を取得

循環型社会形成推進基本法の
公布・施行(2000年6月)

廃棄物処理法・資源有効利用促進法・食品リサイクル
法・建設リサイクル法・グリーン購入法・容器包装
リサイクル法・家電リサイクル法

資源・環境に対する事業者の責務を規定

地球温暖化防止のための
京都議定書の合意(2002年発行)

日本は1990年を基準年として、
二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素を6%削減。

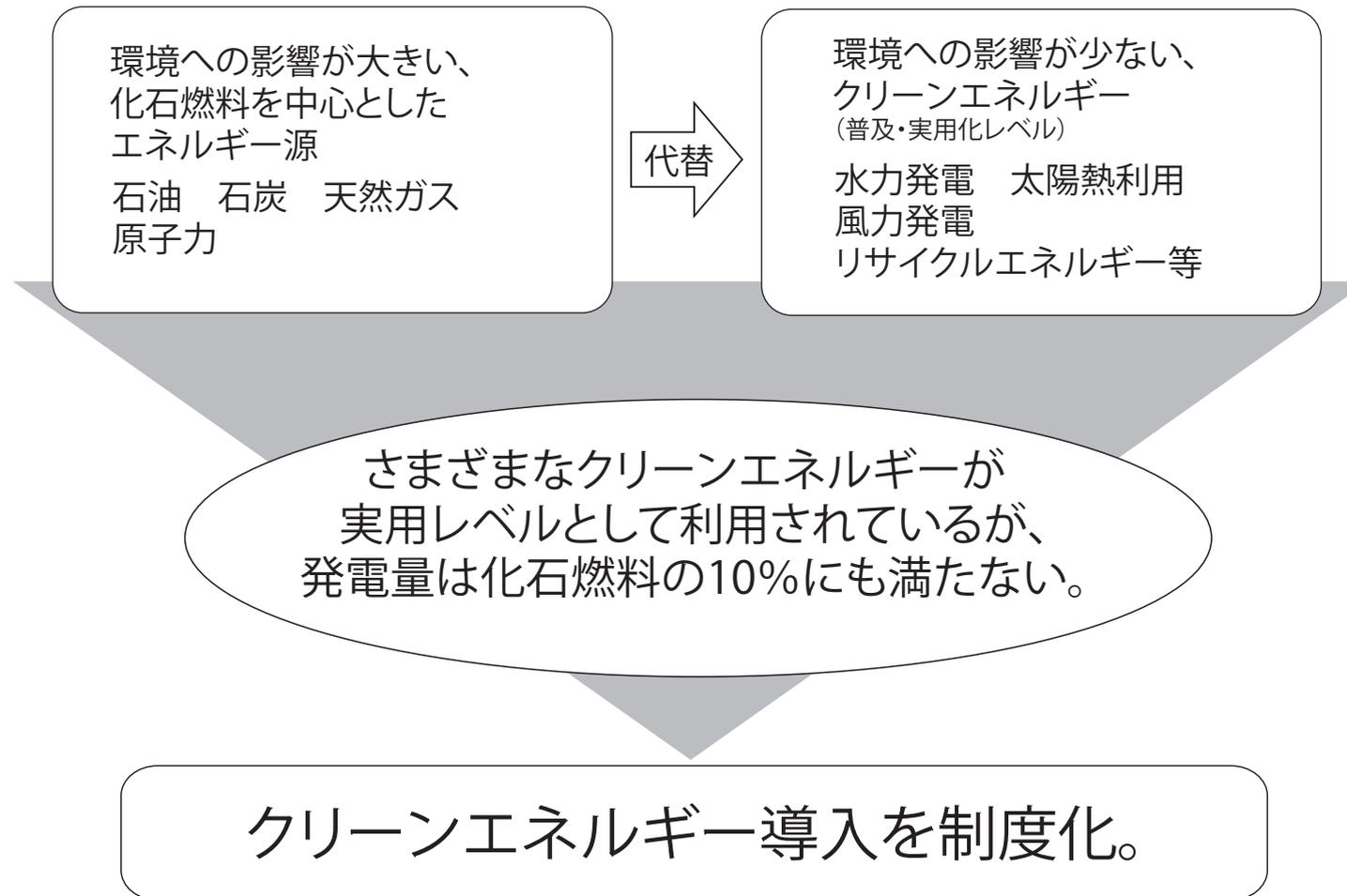


国会で批准する方針を正式に決定。

企業に対して、
環境問題への取組みの強化が
求められている。

化石燃料(石油等)による発電は
CO₂を大量に発生。地球温暖化に
大きな影響を及ぼしている。

企業にとって、化石燃料から
クリーンエネルギーへの代替による
環境への貢献は必要不可欠。

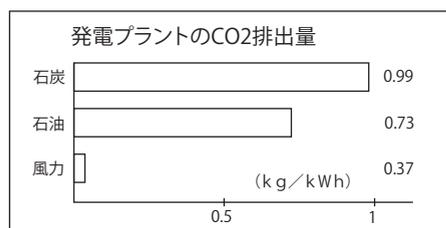


現在、クリーンエネルギー導入制度として、「グリーン電力証書システム」が制定済。

「グリーン電力証書システム」とは

◎省エネルギー・環境対策のために、
クリーンエネルギー導入の促進・拡大を図る制度。

◎クリーンエネルギーとして、
環境に対する付加が少なく、
省エネルギーへの貢献度が
高い風力発電を利用。



◎風力発電の実績を「グリーン電力証書」
として発行。この証書をもって、
使用電気の一部を風力発電でまかなって
いるとみなす。



グリーン電力証書

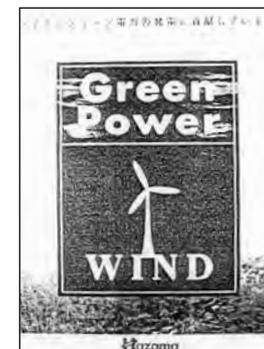
◎企業団体等の大口(100万 kWh/年以上)
長期契約(15年)を対象とする。

◎「グリーン電力証書」販売に際し、
通常の電気料金に、契約時に保証された
グリーン電力発電分(1 kWh当たり約4円)を
加算して支払う。

グリーン電力 使用料金	「寄付金」となり、損金計上不可＝ <u>法人税課税対象</u>
通常の 電気料金	「電気料」として、損金計上可能＝ <u>法人税減免対象</u>

◎証書をもって、環境への取組みのPRが可能。
→ただし、公共性が高いため、販売戦略等の二次利用に
対する厳しい規制が発生。

国からの助成金として、発電所の建設費用を国庫が30%負担。



ポスター

■現在、グリーン電力証書は、「(財)グリーン電力認証機構」の承認を得て、東京電力グループが出資している「日本自然エネルギー(株)」が発行。

◎現在参加を決定している企業

- | | | |
|-----------|-----------|------------------------------|
| ・ソニー | ・住友商事 | ・富士ゼロックス |
| ・アサヒビール | ・西友 | ・前田建設工業 |
| ・セイコーエプソン | ・東京海上火災保険 | ・三井住友銀行 |
| ・トヨタ自動車 | ・東京ガス | ・三井物産 |
| ・日本ガイシ | ・東京電力 | ・三菱地所 |
| ・エーザイ | ・日本ユニシス | ・三菱重工業 |
| ・関電工 | ・ハザマ | ・リコー |
| ・住友金属鉱山 | ・日立製作所 | ・池内タオル <small>(小口契約)</small> |

現在、日本自然エネルギー株式会社が契約締結済みの風力発電所

◎銚子屏風ヶ浦風力発電所

発電所出力：1,500kW

風車発電機：1,500kW×1基（タツケ社）

運 転 開 始：平成13年9月



◎能代風力発電所

発電所出力：14,400kW

風車発電機：600kW×24基（エネルコン社）

運 転 開 始：平成13年11月予定



◎南十和田風力発電所

発電所出力：7,650kW

風車発電機：850kW×9基（ヴェスタス社）

運 転 開 始：平成14年10月予定



「大原風力発電所(仮)」とは

◎電力会社と土地の所有者(=風力発電事業者)との協力で、風力発電所を建設予定。

◎当初、「日本自然エネルギー株式会社」を通じ、国からの助成金をもらう契約をすすめていた。

千葉・大原風力発電所

- ◎東京から車で90分・電車で65分
- ◎成田空港離発着の飛行機から見える
- ◎黒田清輝(洋画家)が愛した景勝地
- ◎年間600万人以上の観光客が訪れる地域。

総面積:約3万坪
発電規模:1,500~2,000kwh×3基

||
関東最大級



現地



HATSUDENは、風力発電の広告宣伝効果における利用価値に着目し、より高い広告宣伝効果を得ることができる風力発電所をリサーチ。

着眼点

風力発電所は、広告宣伝における利用価値が高い。

日本自然エネルギー株式会社 風力発電事業者向け資料・マイ風車特約(標準例から抜粋)

◎弊社は、当該設備を利用した広告に関する排他的な使用权を有するものとします。

したがって、取引先は当該設備を利用して第三者の広告宣伝その他の用に供する権利を予め放棄していただきます。

◎弊社が、当該設備を利用した広告の掲出等を希望する場合は、実費にてこれに対応していただきます。

日本自然エネルギー株式会社では、風力発電所の広告宣伝効果を見越し、二次利用を規制

リサーチ条件1 立地

注目度を高めるために、日本経済の中心地であり、あらゆる情報の発信源である「東京」の近隣地域であること。

関東では、下記の3カ所にしか風力発電所を作ることができない。

- ◎栃木県・那須地方
- ◎茨城県の一部及び千葉県の一部
- ◎千葉県・外房地方(大原)

リサーチ条件2 規模

企業の消費電力に対し、できるだけ多くの電力をまかなえ、企業の看板となりうる、スケールの大きな発電所であること。

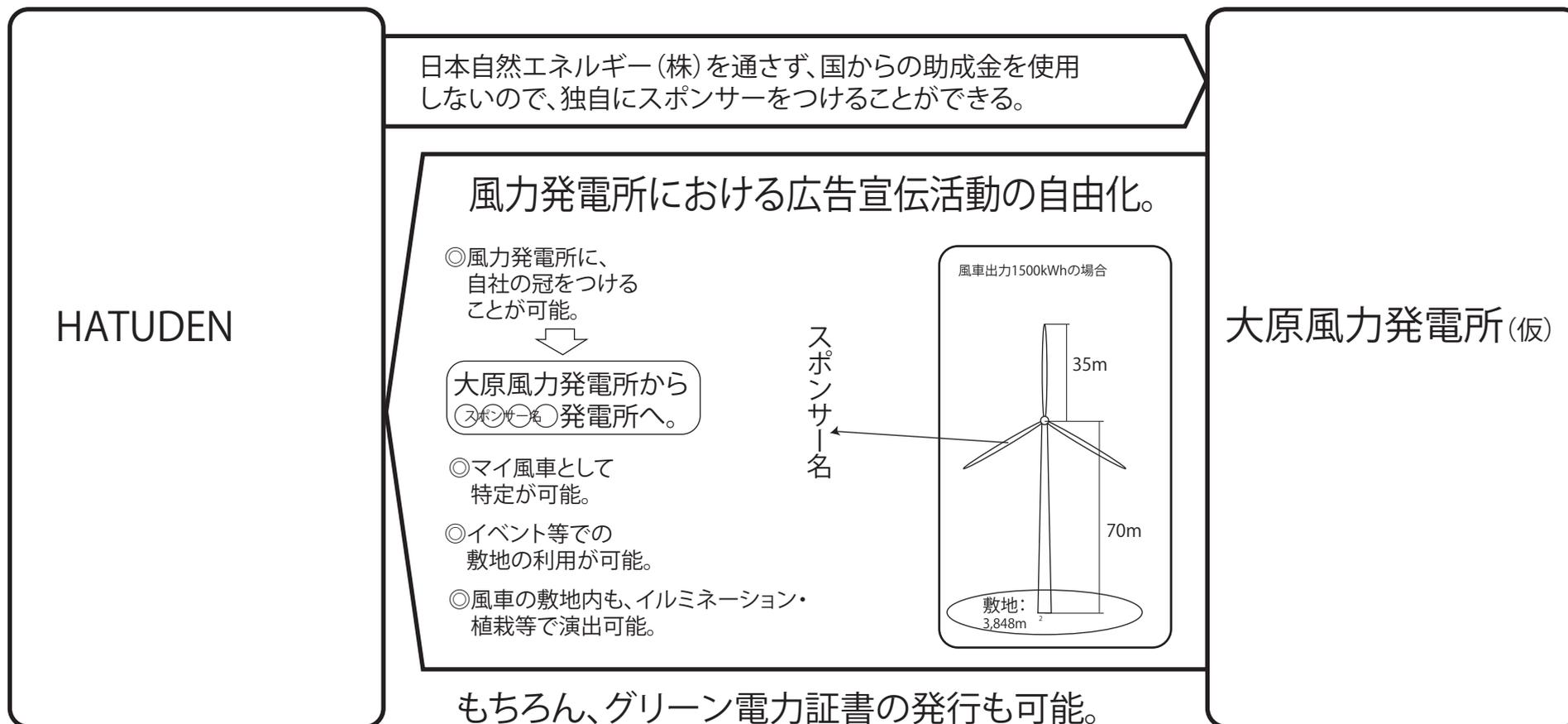
大原風力発電所 = 関東最大級
総面積:約3万坪 発電規模:1,500~2,000kwh×3基

結論

HATSUDENが
直接アプローチ

▶ 大原風力発電所(仮)は、風力発電所の中でも
広告宣伝における利用価値が一番高い。

HATUDENのアプローチによって、大原風力発電所(仮)から、
下記の条件で風力発電所の利用許可を確約。



御社の冠を付けた発電所として、PR活動を展開。
資源・環境問題に対する企業姿勢のフラッグシップとして活用。

◎発電所・風車に社名を掲出。

- ・成田空港へ離発着する飛行機が大原上空を通過するため、機内から発電所を視認することができる。

↓
日本の入口に、看板を掲出。

↓
スケールの大きな企業イメージアップが図れる。

◎各種媒体における宣伝活動・パブリシティによって、自社発電所の建設を通じ、環境への積極的な取組みをPR。

◎3万坪の広大な敷地を利用したイベントを開催。

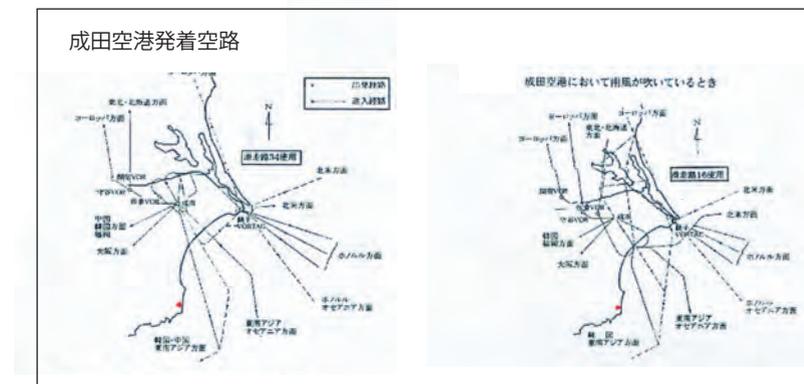
- ・資源・環境問題に対する啓蒙活動の一環として、「発電所見学」ツアーを開催。
- ・風力自動車レース、凧上げ大会等、クリーンエネルギー&地元に関連したイベント企画。

◎グリーン製品の開発

- ・風力発電によってつくられた電気を利用して生産した製品を企画・開発。
→エコロジーを切り口とした、絶大な差別化を図ることができる。

◎グリーン電力証書によるアピール。

- ・名刺等へのすり込みによって、環境への取り組みをPR。



「風力電車」(スウェーデン)



「風力ビール」(アメリカ)



「風力マクドナルド」

ランニングコストの削減

日本自然エネルギー株式会社

通常の電力コストに、風力発電分のコストがオンされる。

通常電気料金: 21円/kWh + 風力発電分: 4円/kWh

大原風力発電所(仮)

通常の電力コストのみ。風力発電分のコストは発電所が負担。

通常電気料金: 21円/kWhのみ

節税対策

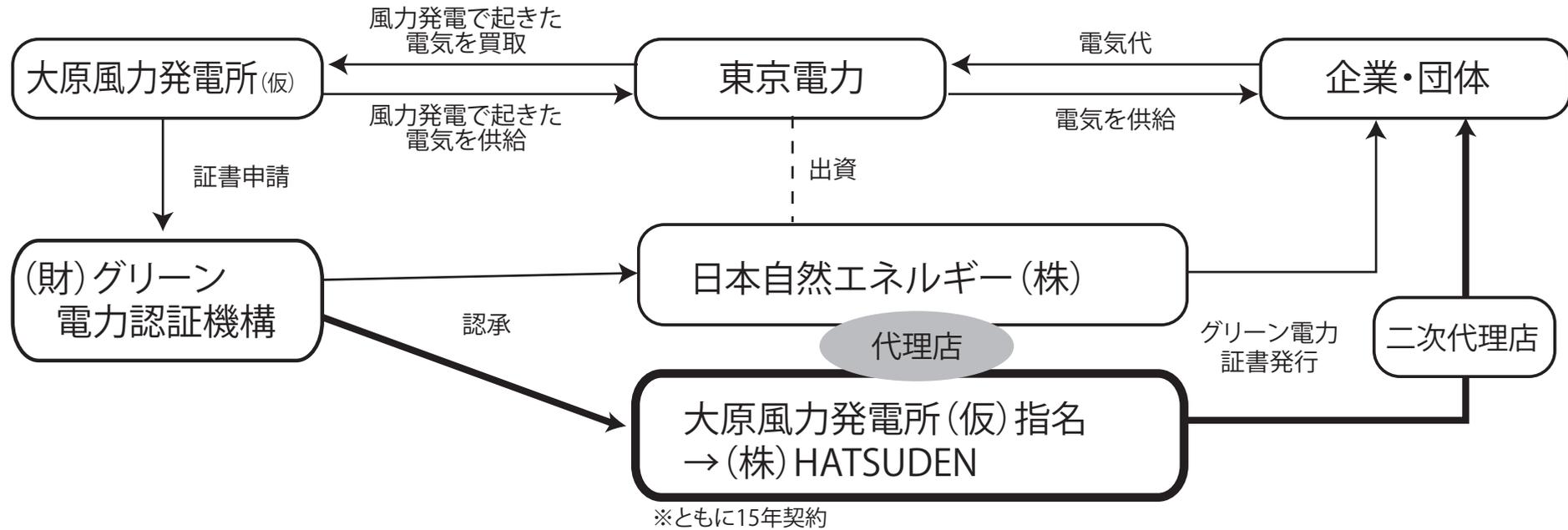
日本自然エネルギー株式会社

風力発電分のコスト(4円/kWh)は「寄付金」として損金計上不可 = 法人税課税対象

大原風力発電所(仮)

スポンサード費用 = 「広告宣伝費」として損金計上可能 = 法人税減免対象

代理店2社の比較



代理店の違いによるメリット比較

代理店	立地	規模	風車の特定	広告の二次利用	電気代	税金対策
日本自然エネルギー(株)	地方の田舎 ex) 能代・南十和田・ 銚子屏風ヶ浦	小	不可	不可	21円/kWh + 4円	寄付金として 課税対象
(株)HATUDEN	千葉・大原 ◎東京から車で90分・電車で65分 ◎成田空港離発着の飛行機から見える ◎年間600万人以上の観光客が訪れる 地域。 ◎黒田清輝(洋画家)が愛した景勝地	関東最大級 総面積:約3万坪 発電規模:1,500 ~2,000kwh×3基	冠可能	何でも可能	21円/kWh	広告宣伝費と して損金計上

HATSUDENでは、大原風力発電所との提携により、
風力発電における広告宣伝の可能性を拡げました。
今後、社会的なポジショニングから、
環境問題の取組みを積極的に
進めていかなければならない企業にとって、
これからの活動に、大いに貢献できるものと確信しています。